

一般質問

食は健康づくりの基本



東近江市民クラブ 和田喜藏

問 飽食の時代と言われる中、食のスタイルが変わってきた。

朝食を食べない子ども、家族揃って夕食を摂らない等、食事のあり方が問われている。

健康づくりの基本とも言われる食生活を見つめ直すためにも、食の現状と将来についてどのように考えていくのか。

答 東近江市の子どもや高齢者の食育の取り組みについての考えは、

小中学校では、自らの健康を守り、健全で豊かな食生活を知る能力を育てるため、学校給食や全教育課程を通じて、食への知識と関心を高め感謝の気持ちを育むよう食育の推進を図っています。

また、毎月19日を「食育の日」とし、給食を通して栄養指導や食事マナー

などを指導しています。

さらに、食育は給食の時間だけでなく、食に関する指導の全体計画をもとに、特別活動・道徳・生活科・家庭科・保健体育科等とも関連付け、家庭や地域の協力を得ながら指導を行っています。

高齢者についても、いつまでも元気に過ごしていただくために、バランスよく食事をしていただくよう栄養相談や情報提供を行っています。

問 6次産業化の推進は、農業者による生産・加工・販売の一体化や、農業と第2次・第3次産業の融合等により、あらゆる資源と食品産業、観光産業、IT産業等と結びつけ、地域ビジネスの展開と新たな業態の創出をすることである。



超人気！ 奥永源寺溪流の里で販売される地元産品

農業者の創意工夫の取り組みをどのように後押しするのか。

答 市内ではジェラートや米粉パン、米粉ロールケーキ、そば、こんにゃくなど様々な取り組みがされています。

その取り組みを一層進めるべく、6次産業化推進講座を開催し、講演会や先進地研修を行っています。

農家や商店主等と連携して、野菜や果物等を加工・商品化をするマッチングの場を設ける計画をしています。

ハードル高い都計見直し



東近江市民クラブ 西崎彰

問 コンパクトシティと都市計画区域の見直しについて。

答 自己完結能力をそれぞれの地域や生活圏で備え、不足する機能を地域間で補完していく、そんな都市構造を目指すべきコンパクトシティであると考えています。

能登川駅を中心とした市街化区域内には、都市機能を集約する未利用地がないという現状も認識しており、適切な範囲でコンパクトなまちづくりの実現を目指していききたいと考えています。

長勝寺町を中心とするエリアは、能登川と八日市を結ぶ幹線街路の沿線に位置するポテンシャルの高い地域であると受け止めています。

区域区分見直しの候補地のひとつとして、周辺の土地利用の検討を進め

ています。

問 天然ホンモロコ特産化事業の進捗状況と、今後の取組方法は。

答 地域資源を生かした地方創生事業として、地元漁業組合、料理飲食組合等が中心となり、5月に東近江市ホンモロコ特産品化推進協議会を設立しました。

8月1日には、伊庭内湖の天然ホンモロコの紹介とPRを兼ねたシンポジウムを開催し、約70名の参加をいただきました。天然ホンモロコの地域資源としての価値を参加



高級食材の琵琶湖産天然ホンモロコ

者のみなさんと再認識しました。

今後は、新たな調理方法等、広くアイデアを求め、地元料理店等と提携し、新しい郷土料理として天然ホンモロコ料理の普及に努めます。

問 垣見隧道の工事費になぜ県の負担がないのか。

答 垣見隧道の拡幅事業に対して補助を行うことは、主要地方道栗見八日市線の改良整備に対して二重投資になるとの見解から、県は負担できないとしています。

当市の考えは、本来県道として整備されるべき路線であり、補助制度もあることから、今後もあらゆる機会をとらえて強く要望を行います。